

報道関係者各位

No.-62117

2014年6月2日  
株式会社東陽テクニカ

## 世界初の CFP2/CFP4 対応 100G イーサ測定器を発売開始

～データセンタやエンタープライズバックボーンへの 100G イーサ試験機能を提供～

株式会社東陽テクニカ(本社: 東京都中央区、代表取締役社長 五味 勝、以下「東陽テクニカ」)は、CFP2 および CFP4 インタフェース<sup>\*1</sup>に対応した 100G イーサ測定器の国内販売を開始しました。

スマートフォンの普及やクラウドの幅広い分野での活用により、国内の IP トラフィックは今も急激な増加を続けています。急増する IP トラフィック対応のため通信キャリアやサービスプロバイダではバックボーンへの 100G イーサ導入が進んでいますが、クラウド事業者やデータセンタ、そしてエンタープライズバックボーン等でも 100G イーサ導入の検討が始まりつつあります。

しかしデータセンタやエンタープライズバックボーンへの 100G イーサ導入には、インタフェースをより小型化しポート密度を高めることや、これまで高価であったポート単価や消費電力を低く抑えることが必要とされています。

今回販売を開始する測定器は、東陽テクニカが総代理店となっている米国スパイレント・コミュニケーションズ社(以下「スパイレント社」)が提供する 100G イーサ対応の「dX2- 100G モジュール」です。

dX2-100G モジュールは CFP2 インタフェースに対応した 100G イーサを 4 ポート搭載し、専用アダプタの利用により新世代の小型インタフェースである CFP4 インタフェースも動作が可能な世界初の IP 測定器です。トラフィック試験において最も重要とされるパケットジェネレータ機能とアナライザ機能に特化し、全てのポートで 100G ワイヤレートでのトラフィック送受信が可能です。dX2-100G モジュールを既に発売中の Spirent TestCenter シャーシに搭載することで、1 シャーシあたり最大 48 ポートの 100G イーサ負荷試験(4.8Tbps に相当)が実現できます<sup>\*2</sup>。

また、dX2-100G モジュールはポート密度を従来製品の 2 倍に高密度化すると同時に、ポート単価を約 50 パーセント、ポート当たりの消費電力を約 70%低減しました。

東陽テクニカは 2010 年 2 月に第一世代の 100G イーサ測定器を国内リリース後、順調に高速イーサ測定器の出荷を重ね国内市場に大きく支持されてきました。dX2-100G モジュールは 100G イーサ測定器の第四世代に相当し、データセンタやエンタープライズバックボーンなどのよりエンドユーザに近い環境向けへの出荷が見込まれると予想しています。

なお、dX2-100G モジュールは 6 月 11 日から開催される Interop Tokyo 2014 で展示を予定しています。

Interop Tokyo 2014 | “To the Next Connected World”

開催場所: 幕張メッセ

開催日時(展示会): 2013 年 6 月 11 日(水)～13 日(金)

<http://www.interop.jp/2014/>

## ■新ハードウェア紹介

### dX2-100G モジュール (CFP2/CFP4 対応)

- ・dX2-100GO-P4(CFP2 インタフェース 4 ポート搭載)  
100G イーサ×4 ポート、高密度モジュール
- ・dX2-100G-P4(CFP2 インタフェース 4 ポート搭載、マルチスピード対応)  
100G イーサ×4 ポート、40G イーサ×8 ポート、10G イーサ×32 ポート、高密度モジュール

【dX2-100G モジュール外観】



## ■発売中の CFP2 対応 100G モジュール

### fX-100G モジュール(CFP2 対応)

- ・fX-100G-P2(CFP2 インタフェース 2 ポート搭載)  
100G イーサ×2 ポート、ミドルクラス・モジュール

### mX-100G モジュール(CFP2 対応)

- ・mX-100G-P2(CFP2 インタフェース 2 ポート搭載)  
100G イーサ×2 ポート、ハイプロトコルパフォーマンス・モジュール

予定価格: 約 2,800 万円(税抜)～

年間販売目標: 100G イーサ 60 ポート

発売予定日:

2014 年 6 月 (dX2-100GO-P4)

2014 年 10 月 (dX2-100G-P4)

## ■製品紹介 URL

<http://www.toyo.co.jp/spirent>

## ■関連 URL

スパイレント社ニュースリリース

[http://www.spirent.com/About-Us/News\\_Room/Press-Releases/2014/3\\_11\\_14\\_Spirent\\_Launches\\_100G\\_Test\\_Moudules\\_with\\_CFP4](http://www.spirent.com/About-Us/News_Room/Press-Releases/2014/3_11_14_Spirent_Launches_100G_Test_Moudules_with_CFP4)

\*1 CFP MSA が策定した高速通信インタフェースで、CFP2 は 2013 年 3 月、CFP4 は 2014 年 3 月にそれぞれ仕様が完了。

\*2 SPT-N11U シャーシに最大 48 ポート、SPT-N4U シャーシに最大 8 ポートの搭載が可能。

[米国スパイレント・コミュニケーションズ社 (Spirent Communications)について]

スパイレント社は、研究開発ラボや通信事業者、通信機器製造会社、一般企業のIT部門などで使用されるテスト機器の製造販売やコンサルティングサービスを行う業界のリーダ企業です。同社のソリューションによって 10/40/100G イーサなどの有線から無線/衛星通信に至るまで、あらゆるお客様の QoE(Quality of Experience)を高めることができます。東陽テクニカは同社の日本国内における総代理店です。

[株式会社東陽テクニカについて]

**東陽テクニカ**は昭和 28 年の設立より「技術と情報」をキーワードに、最先端の「測るツール」を内外の電子計測器メーカーより輸入し、日本の技術発展に寄与することを使命として、日本の研究者・開発者に提供してきました。「電子技術センター」における修理、校正、技術サポートや自社製品の開発、「テクノロジーインターフェースセンター」で行うお客様向けの各種セミナー・トレーニングなどの取組みは、400 人を超える全従業員の 8 割を占めるエンジニアの技術力に裏付けられています。東陽テクニカはこれからも、「テクノロジーインターフェース」の使命を果たすべく努力してまいります。東陽テクニカに関する詳細は、<http://www.toyo.co.jp> をご覧ください。

スパイレント社製品に関するお問合せは下記までお願いします。

株式会社 東陽テクニカ 情報通信システム営業部

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 e-mail: [spirent-web@toyo.co.jp](mailto:spirent-web@toyo.co.jp)

また、当社に関するご質問は下記までお願いします。

株式会社 東陽テクニカ経営企画室

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 e-mail: [kikaku@toyo.co.jp](mailto:kikaku@toyo.co.jp)

\* 記載されている会社名、製品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

\* 記載の商品名、価格及び担当部署、担当者、Web サイトの URL などは、本リリース発表時点のものです。